第９期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

課所名・担当名	健康長寿課　管理担当・地域包括ケア担当
担当者名	

＜注＞表を結合しないでください。

※「介護保険事業（支援）計画の進捗管理の手引き（平成３０年７月３０日厚生労働省老健局介護保険計画課）」の自己評価シートをもとに作成してください

保険者名	貴自治体において第９期介護保険事業計画に記載している内容						令和７年度（年度末実績）				公表の状況	
	項目名	細目名	目標を設定するに至った「現状と課題」	第９期計画における「取組」	「目標」（事業内容、指標等）	中間見直し	取組の具体的な実施内容、実績	自己評価	評価の理由	課題と対応策	実施状況	公表の方法
戸田市	②給付適正化	給付実績の活用による適正化	本市の高齢化率は、全国平均と比べて低いものの、高齢者人口は増加の一途をたどっている。第９期介護保険事業計画における介護保険料は、県内でも高い状況である。今後も高齢者人口の増加に伴い、介護や支援を必要とする高齢者の増加が予測される中、必要な介護サービスが、適正に提供されるよう取り組む必要がある。 なお、令和６年度より、給付費適正化主要３事業と再編し、「要介護認定の適正化」「ケアプラン点検」「医療情報との突合・縦覧点検」を実施する。	介護給付適正化の推進	介護給付費適正化事業 ①要介護認定の適正化 ・認定調査状況チェック：全件実施 ②ケアプラン点検 ・ケアプラン点検：年３事業所で実施 ・住宅改修、福祉用具購入・貸与調査等の点検：住宅改修について、事前申請時に全件点検するとともに、状況に応じて実地調査を実施 ③医療情報との突合・縦覧点検 ・医療情報との突合・縦覧点検：全件実施	なし	令和７年度は予定通り、給付適正化主要３事業について、実施した。 ①要介護認定の適正化 認定調査状況チェックとして全件（２，３２７件）実施した。 ②ケアプラン点検 ケアプラン点検として、３事業所、１０事例で実施した。住宅改修、福祉用具購入・貸与調査等の点検として申請時に全件（４２９件）実施した。 ③医療情報との突合・縦覧点検 全件実施した。（突合２，８０２件、縦覧点検２，２６８件）	◎	介護給付費適正化事業（主要３事業）はすべて実施でき、返戻処理等につなげることができた。	・令和７年度については、適正化主要３事業について、すべて予定通り遂行することができた。 ・令和８年度以降についても、国の方針どおり、①要介護認定の適正化②ケアプラン点検③縦覧点検・医療情報との突合の介護給付費適正化主要３事業について、引き続き実施する。	実施	市HPで公開
戸田市	①自立支援・介護予防・重度化防止	一般介護予防事業の推進	・TODA元気体操教室数（会場）及び介護予防リーダー養成者累計数は順調に伸びている。一方で年齢や心身の状況、所属コミュニティに関わらず、誰もが通える身近な場所にあるTODA元気体操教室（会場）が求められていることがある。また、介護予防リーダーの平均年齢が約７４歳と高齢化が進んでいるが、世代交代が難しく、継続困難に至る教室（会場）が発生する可能性がある。	TODA元気体操教室（会場）の新規整備	TODA元気体操教室（会場）の新規整備事業 R6　R7　R8 立上げ教室（会場）目標数　3　3　3 立上げ教室（会場）実績数　4　0 ※上段は目標値、下段は実績値 ※年齢や心身の状況、所属コミュニティに関わらず、誰もが通える身近な場所にあるTODA元気体操教室（会場）を創出することを目標とする。	なし	新規TODA元気体操教室（会場）立上げ数：0か所 ※ただし、新規立上げ教室（会場）支援中が2件有り。 ・新規TODA元気体操教室（会場）の整備を図るため、地域住民同士の繋がりを深め、介護予防意識を高めるとともに教室（会場）運営を円滑にする介護予防リーダーを新たに28人養成した。 ・新規教室（会場）及び既存教室（会場）に理学療法士を年間延べ179人派遣した。	○	目標の新規3会場を年度中に立ちあげることはできなかったが、新規2会場の立上げ支援を行えている。 また令和6年度の実績を上回る介護予防リーダーの養成と教室（会場）への理学療法士の派遣を行うことができた。	令和7年度は、介護予防リーダー養成講座を再び10月の下半期開催に戻して実施したところ28人養成することができ、令和6年度の15人から大幅に増やすことができた。令和8年度も秋に介護予防リーダー養成講座を開催する。	実施	市HPで公開
戸田市	①自立支援・介護予防・重度化防止	地域ケア会議の開催	・自立支援に資するケアマネジメントを基本に、地域ケア会議を通して地域課題を共有し、資源開発や政策形成につなげていくことが求められている。 ・ケアマネジャーについて、多職種の専門的な視点に基づく助言を通じ、参加者に専門職（助言者）の多角的な視点の気づきやアセスメントの能力を向上させる必要がある。	自立支援型地域ケア会議の開催	自立支援型地域ケア会議の開催 R6　R7　R8 開催回数(回)　4　4　4 ※R6及びR7は実績値、R8は目標値 ※多職種の専門的な視点に基づく助言を通じ、ケアマネジャーに対する専門職（助言者）の多角的な視点を学ぶ機会やアセスメントの能力向上の機会とすることを目標とする。	なし	自立支援型地域ケア会議の開催回数：4回 ・目標では年４回開催で、予定のとおり開催することができた。 ・事例提供を行ったケアマネジャーから、「1人に対して深くアセスメントでき、良い経験になった。」「モニタリング報告を実施することはとても勉強になる。うまくいったことやうまくいかなかったことを知識として持っておくことで、今後のケアマネジメントにも生かすことができる。」などの感想があった。 ・助言者（専門職）からは、「助言者としても、様々な視点を学ぶことができ、自分自身のブラッシュアップにも繋がっている。」等の感想があった。	◎	目標のとおり自立支援型地域ケア会議を年4回開催することができた。 各回会議後に事例提供をしたケアマネジャーと助言者を含めた振返りを行うことで、会議の良かった点や課題点を確認することができた。	会議の目的として「提供事例に係る生活課題の解決」に重きを置くことにしたい。 認知症のケースでは「当事者は何ができなくて何ができるのか」という評価が客観的にできておらず、適切な支援や助言に繋げられないことがある。	実施	市HPで公開